

午後Ⅱ試験

問 1 (CSA とシステム監査について) は、設問に対して適切に論述されている答案とそうでない論述がはっきりと分かれた。設問イでは CSA の監査について、設問ウでは監査における CSA の活用について記述することを求めているが、両者の区別ができていない論述が散見された。設問イでは、監査要点の意味について理解していない論述が目立った。また、設問ウでは、監査における CSA の活用について、活用の局面や方法などを具体的に記述していないものが多かった。

問 2 (システムの日常的な保守に関する監査について) は、システム保守という基本的かつ一般的なテーマであったことから、最も選択率が高かった。問題文をよく読めば、短期間あるいは緊急で対応しなければならない保守についての出題だとわかるはずであるが、システム開発に準じた保守やシステム運用など、題意とあっていない論述が多く見受けられた。設問イでは、想定されるリスクに対する要因が不十分な論述が多く、情報セキュリティの観点からの論述も散見された。設問ウでは、監査要点や監査証拠に関する論述が不十分な受験者が目立った。また、システム管理者の立場での論述や、設問では求めている監査結果や改善提案などの論述も散見された。

問 3 (情報システムの冗長化対策とシステム復旧手順に関する監査について) は、昨今、多くの組織で検討されているテーマであり、勤務先などにおいて、関連する業務を実際に経験した受験者が多かったようである。しかし、設問イにおいて、問題で求めている内容を十分に論述できている答案は少なかった。情報システムの冗長化対策の検討過程における対策を比較した論述ではなく、単純に現在どのような冗長化対策が適用されているかを説明しただけの論述や、冗長化対策の経済合理性にまったく触れていない論述など、出題の趣旨に合致していない論述が散見された。